



日本共産党 北区議会議員

のの山けん 区政レポート

http://kyoukita.jp/nonoyama/ mail@ken-nonoyama.com

No.409 2016.11.2

日本共産党北区議員団

〒114-8508 王子本町1-15-22

ご相談は
お気軽に **090-2156-3510**

埼京線「高架」化、補助85号線拡幅で
住民と商店街に立ち退き迫る都・北区

十条まちづくり特別委で党区議団

住民不在のまちづくりを告発

**鉄道高架化で
120軒立ち退き**
多くの住民が「地下化」を望んでいるにもかかわらず高架方式とされた鉄
道立交計画案によっ
て、仮線工事のため
の附属街路（側道）
整備が必要となり、
120軒もの住民が
立ち退きを余儀なく
されます。

10月24日に開かれ
た区議会十条まちづ
くり特別委員会で日
本共産党北区議員団
は、東京都と区が進
める埼京線十条駅付
近連続立体交差化と
補助85号線拡幅計画
によって多くの住民
が立ち退きを迫られ
商店街が壊滅的打撃
を受けることを明ら
かにし、計画の見直
しを迫りました。

日本共産党 学習交流会 十条まちづくり を考える



11月10日(木)

18時30分開場・19時開会
上十条ふれあい館

●あいさつ 都議会議員

そねはじめ

主催・日本共産党北区議員団

野口まさと区議は、「北区とJRは地下化での施工を約束してきた。地下化にすれば住民への影響は最小限にできる」と指摘しました。

商店街の声に 耳傾けよ

のの山けん区議は、鉄道立交にとまなう補助85号線拡幅問題を追及。現道18mを30mに広げることによって、いちよう通り商店街が撤退に追い込まれる問題で、いまだに区が商店街にまともな説明をしていないことを厳しく批判しました。全容が明らかになってきた十条まちづくり。日本共産党は、まちづくりは住民合意でこそ、と求められています。

赤羽小140周年



明治9年開校の赤羽小学校が140周年。10月29日の記念式典では子どもたちのアトラクションに感動しました。

(のの山けん)

北区民商まつり



10月30日に飛鳥山公園で開かれた民商まつりでは、名物カレーや地元赤羽のおでんに舌鼓を打ちました。

(のの山けん)

戦争犯罪に時効はない

映画「手紙は覚えている」(アトム・エゴヤン監督)

アウシュヴィッツ収容所の生存者が復讐を果たすため、家族の命を奪った元ナチス兵士の行方を追いつめる物語。

時として自分の妻が亡くなったことも忘れてしまふ認知状態のゼヴは、

同じ施設で生活する友人マックスから依頼を受けて単身アメリカに渡り、ナチスの兵士を探す旅に出る。ルディ・コランダーという偽名を使って今もどこかで暮らしているという容疑者は4人。記憶を失いかげながら、「すべてが書かれている」と手渡されたマックスの手紙だけを頼りに、一人ひとりの所在を訪ね歩くゼヴの行動が、この映画のタテ糸となっている。

一方、ヨコ糸となっているのは、ナチスの戦争犯罪という歴史背景だ。ゼヴもマックスも、二の腕に収容番号が刻まれた

アウシュヴィッツの収容者であり、戦後70年を経た今でもナチスの犯罪を許すことができない。この動機こそが、映画に重厚なテーマと緊張感を与えている。

監督はカイロ出身で56歳のアトム・エゴヤン、脚本はこれがデビュー作となる37歳、アメリカのベンジャミン・オーガストという若いスタッフだが、「戦争犯罪に時効はない」という揺らぎのない立場性には深い感銘を

覚える。

ゼヴを演じるのは、かつて「サウンド・オブ・ミュージック」でトラップ大佐を演じたクリストファー・プラマー。記憶がまだらの難役を好演し、また一つ快作をキャリアに加えた。マックスは、あの「スパイ大作戦」のマーティン・ランドー。一級のサスペンス映画としても見ごたえあり。原題(Remember)の本当の意味は最後にわかる。

(のの山けん)



ラスト5分の衝撃—すべての謎が解き明かされる時、あなたの見ていた世界は一転する。

11月5日(土) 10:00~12:00
 11月6日(日) 13:00~15:00
 11月8日(火) 18:30~20:30

今回の募集は、家族向・単身者向、定期使用住宅(若年ファミリー向・多子世帯向)、若年ファミリー向です。相談の際は、申込用紙と収入がわかるもの(源泉徴収票、確定申告書など)をご持参下さい。詳しくは、☎090-2156-3510(のの山)まで。上記時間以外の個別相談にも応じます。



※会場はいずれも
 のの山けん事務所です。

都営住宅

入居申込
 相談会